



95
118
240

118

峯子論

大觀
厚



宋子子の論一



貨^{ツカ}と^カ以^テ其^ノ室^ヲを^テ務^メん人^ト以^テ其^ノ室^ヲを^テ務^メん^ル
 禮^トや^ハ禽^獸を^テ本^トに^シて^ハ人^ノは^ハ猶^ホの^レの^レ也^ニ
 や^ハ故^ニ人^ノハ^ハ万^ノ物^ノの^レ室^ト天^ノ壤^ノの^レ粹^ト也^ニ萬^ノ物^ノ
 人^ノの^レ爲^ス生^ル一^ノ人^ノの^レ爲^ス從^テ生^ル也^ニ人^ノハ^ハ何^レ乃^シ
 ため^ニよ^シき^ク物^ハ何^レの^レ也^ニ一^ノ人^ノの^レ爲^ス生^ル也^ニ
 是^レ天地^ト同^ク一^ノ射^ス也^ニ其^ノ所^ノの^レ行^キも^ハ亦^シ統^ノ
 也^ニ一^ノ人^ノの^レ爲^ス生^ル也^ニ天子^ト臣^ト也^ニ夫婦^ト明^ク也^ニ也^ニ

あまを豺狼とて子と教はるとハせん人面
獸心も乃ッ子ハ勝んてと居小物か一唯人非人
之云て教さるゝ嬰兒のため小態位キウ動ドウ笑コウ小た
一ハ旦夫其教と求ふふよとてとてハ猫ハ
子と産てたまへん今良ぬのあま其今ふゆて
と居ふ小猫の性鼠と捕合ぬと以て性
ふれ里好ふとふと斯心何とて猫母ま
是と少きと扶ツクまをハ母ハ毎ニてハ捕ハ
の質とてふれ里愛とつて子と居るはとハ鼠

勤チン斯シ心出て子の取れ鼠ハハ教ハふゆハ
ふあハと居るとあまハ一ハ今良ぬ小と居るあり
初ハ子と合ぬの性ハあハ習ハひハ
福ハれハ也ハれハ子と合ふの猫と居るも
今ハ子ありてハ今良ぬと居るのハ子と居る
天理也猫ハ子と合ふの理也ハと
あつて合ふは一はむしの人も初ハ子と教
性ハと居るもハ今良ぬと居るハ子と居るハ
骨ハ子ハ一ハ自性衰ハれハもハ是ハ猫と人

少くも神ハ祀礼と受はしむるや以て命啓
らとて祈祭ハ千未如故ハ積ふともさやいの
未ふやハあじし仰多天少海ふの祀礼を
正かく俯多國の祀人ともふハいふ祀礼も
眞の祀禮とて正あじしあつ白ふとて祀礼
たふハふふ又とて人ともみ孝とて人祀天
倫と破るハ他の人と殺ともうも祀礼一在
祭人の好多備と祀ふりのハ好る人さう
少くも祭よ備とて人ともや聖人此ふ出だて奉

國鳥有とて連邑滅没せん九埒ふも道れん
蒼天よも沖人ともて作らる一此國この人皆
此ふらあきい道たれあふも黙して言ふも
人のやあふはあきとて孝のたふるとはさるや
子ともさハ祭祭あふ初ふふともさるや往
一とて告む海うんともして命啓邪見の
志と改め日用の驕奢と省きて子と孝と
とらふ道あまして他のはあきの子はさるて
あふ一とてあふあふの命あうハ祭

学美中も遊ぬ池——子と二人三人限る言
せよとら子物子羅きて死す——ふ嗣あまよ
まふりのむらぬくもあし子あまを授ぬら
今の通情ありとや月の世小八子可しを
論治あらとら 我朝大碓の皇子小碓の皇
子ハニ子まてま——小碓の皇子ハ日本武尊也
そがの神代より人々まふまて其おつきり
あふに侍る由世の興ふや京角倉与市ハは
まて寧生——純ハあれとけむぬ人ハニ子こを

生むハ死しきよよとらハ鶴を殺さぬのむあし
まきりしを化ふ具子して生るりのあれ必死
傍よ控り人の視聴を曝サテきとらハ蓬さいて生
るものと鬼子と怖れあまものさゆらりのと歎
あしとらて控は或ハ信のうらふと裏と着て
けふありの、れ皆ふ具ハ純とてあまさらとら
しりは是ふ具子あふんあまふましく後信
皆あまの人ありけりあふんあまふましく後信
うらみあまふまふんあまふましく後信

とて^{カコ}産血と嘗むるを^サておれと稱し
死胎流産と詭ふりの也あつらや産血と被
産血と嘗むるハ生毛のは^カ産と患ふと^カ
おれも又^カおれ^カて^カあせ^カる^カて^カ産^カ
他邦の仁人何れを^カ詭^カふ^カや^カ海^カを^カお^カれ^カ
とも^カ産^カを^カお^カい^カし^カ産^カま^カす^カ^カは^カて^カ産^カま^カす^カ
あつら^カん^カ又^カ四^カ十^カ二^カの^カ二^カつ^カ子^カハ^カ父^カ母^カハ^カ山^カ家^カの^カ子^カ
る^カも^カあ^カつ^カや^カお^カれ^カも^カ又^カ思^カつ^カる^カて^カあ^カつ^カて^カ天^カ賦^カの^カ
何れ^カを^カ産^カま^カす^カと^カ産^カ人^カ昔^カ子^カ無^カ常^カの^カ産^カま^カす^カ人^カ五^カ月^カ五^カ

日は生ぬるを^カて^カ長^カ戸^カを^カ付^カけ^カお^カ父^カ母^カハ^カ利^カせん
とて^カそ^カを^カ父^カ控^カへ^カし^カと^カ母^カ育^カて^カ産^カま^カす^カ
又^カお^カれ^カは^カ父^カ飲^カひ^カし^カ子^カ無^カ常^カも^カ曰^カ父^カ君^カ
命^カと^カ天^カ子^カを^カお^カふ^カと^カ戸^カを^カお^カふ^カと^カ向^カし^カて^カ
又^カ悟^カめ^カけ^カ子^カと^カ産^カ後^カハ^カ齊^カの^カ字^カ相^カを^カれ^カ
つ^カと^カお^カし^カ中^カ國^カの^カ人^カ猫^カと^カ同^カし^カこの^カ産^カま^カす^カ
界^カハ^カ産^カま^カぬ^カる^カを^カお^カれ^カけ^カら^カと^カ人^カ常^カの^カて^カ人^カえ^カ
よ^カて^カも^カあ^カれ^カ人^カ常^カの^カの^カハ^カ是^カを^カお^カの^カ産^カま^カ
産^カま^カす^カの^カ國^カの^カの^カあ^カる^カ人^カハ^カ我^カの^カ産^カま^カす^カと^カ産^カま^カす^カ

又定改りて其の好まざる

一我藩内赤子と殺の西の凡俗と為す林のふ
の令官の^{監官の持}所なるを

監官の持所なるを
の和は年々多し

一子と母のふりて死にて其の好まざるを
と母に死にて其の好まざるを

其子に於て母を死にて其の好まざるを

借ぬれおもしろい廳女もかして其の好まざるを

茶澤^{茶澤}は其の好まざるを

一其の好まざるを人なりて其の好まざるを改め其母

一載せ^載産みりて其の好まざるを其の好まざるを

て其の好まざるを死にて其の好まざるを

の葬り^葬は其の好まざるを

とらりて其の好まざるを其の好まざるを

一子と母のふりて其の好まざるを其の好まざるを

悪俗なりて其の好まざるを其の好まざるを

と画^画り街衢^{街衢}に表は其の好まざるを

怖^怖しんと其の好まざるを其の好まざるを

やうに上り其の好まざるを其の好まざるを

しんご

一本州出羽郡須賀川町の内海またまの元文の
ひらりとひらりとあつてふも能くふりて金
まゝ宛とてふもしひかるといふも能く
まゝのまゝとてふもしひかるといふも能く
の志とてはとてふも

一江戸竹川早大和屋安助八田村彦のむり
一岡の領子とてふもしひかるといふも能く
まゝ宛とてふもしひかるといふも能く
まゝ宛とてふもしひかるといふも能く

月おさあつてとてふもしひかるといふも能く
まゝ宛とてふもしひかるといふも能く
一本州出羽郡須賀川町の内海またまの元文の
ひらりとひらりとあつてふも能くふりて金
まゝ宛とてふもしひかるといふも能く
まゝのまゝとてふもしひかるといふも能く
の志とてはとてふも

一子と其のふらのきん俗と福とんことぬもの
資とちありきとぬゆのよ上野下野とら流歩
陸のふしむくさるるを固君又其料と賜
等しおふものせぬ見たるふさ皆けは法ありと
ちて

竊ふとふおは悪凡の福をもほ久一可
よあつていふあはぬをけふと許るのゆを
其の貴と書ふはるも貴百倍して其悪俗
ちと福一のふさるるや其ひあつて其教

ふしおるもあつても貴が後小通いとも斯心
あつて斯政ともなく家少きあつて人か

寛政八年春二月梅隠息入書





